教育だより 12月

「〝教育の里づくり〟の集い」を開催

11月6日（日）、武蔵中央公民館セントラルホールで、学校関係者や地域・保護者等の代表、行政関係者等358人に参加していただき、「〝教育の里づくり〟の集い」を開催しました。

集いでは、学力向上の取り組みの先進地である秋田県大仙市の三浦憲一教育長に、大仙市の取り組みについて講演いただきました。また、国東市教育委員会から国東市の児童生徒の学習面・生活面の実態報告を行いました。続いて、PTAの代表者がこれからの教育について「集会アピール」を宣言し、家庭・地域・学校が一体となって教育に関わっていく大切さを確認しました。

今回の集いは、多くの皆さんの参加、ご協力により盛会に終えることができました。また、アンケートなどでいただいた貴重なご意見や、学んだ多くのものを成果と課題として整理し、市教育委員会として今後の施策にいかしていきたいと考えています。

〈主な意見 ―アンケートより―〉

○このように市民が集まり共通意識を持つことは、とても大切なことだと思います。講演もとてもよくわかりました。

○学校と地域が一緒に教育を考えるこの機会をつくっていただきとても良かったです。国東市に力を感じました。

○学力や生きる力を伸ばすには、学校の教育力、それを支える地域人材の活用・教育委員会の画期的な教育方針のすべてが一体化して実現されます。そのためには、市や県の教育費を如何に充実していくかによると思います。

○ふるさと祭りと重なって出席できなかった人もいました。できる限り重ならない日時の設定をお願いします。

以上のようなご意見が寄せられました。参加者には、今後の子育て・教育のあり方について主体的に捉え、関わっていくことの重要性を認識していただいたと思っています。

来年度以降も、開催時期・広報の仕方等を考慮しながら継続していきたいと考えています。

地域ぐるみで防災対策を

東日本大震災・津波災害では、沿岸部の学校施設に大きな被害を与えるとともに児童生徒や教職員にも多くの犠牲者がでました。

各小中学校では、安全教育の一環として計画的に防災教育に取り組んでいます。授業中、昼休み、登下校中など、いろんな場面を想定して避難訓練を実施しています。避難訓練など防災活動の内容は、家庭や地域と深く関わっています。また、児童生徒は、地域にいる時間の方が多いことからも、今後は地域での防災訓練への参加等、家庭・地域ぐるみの防災教育を推進しなければならないと考えています。

そこで、海岸からの距離が近い学校、海抜の低い校区（竹田津小・富来小・武蔵東小・安岐小・国見中）では、国東土木事務所、国東市ボランティア連絡協議会（松本保会長）の協力を得て、防災教室《土木未来（ときめき）教室～地震と津波について～》を実施しました。地震・津波の起こる仕組みや避難の仕方について、クイズやスライドを通して、真剣に学ぶことができました。

教育委員会では、今回の震災状況を踏まえて、児童生徒の安全を第一に、改めて学校の防災対策に力を入れています。各学校では、校区や児童生徒の実態に即して防災計画を見直し、想定にとらわれずに、実効性のある防災教育に取り組んでいきます。

(1) **学校の現状把握**
海抜、海岸からの距離、河川からの距離、避難経路・場所の指定等

(2) **学校施設の状況**
校舎の高さ、屋上・最上階の収容可能人数等

(3) **防災組織の見直し**
校長、教頭、担任の不在時や夜間・休日の連絡体制等

(4) **対応行動**
避難方法、避難訓練、家庭や関係機関との連携等

※土木未来（ときめき）教室のお問い合わせ
（国東土木事務所／木下・森迫 ☎0978-72-1321）
（国東市ボランティア連絡協議会／藤原 ☎0978-68-1976）